

Sonix Technology Co. Ltd.は CodeBeamer を導入し、

企業の成長エネルギーを推進



“統合したシステムはとても使いやすく 仕事の管理と追跡の効率を大幅にアップします。”



1996年7月に設立された Sonix Technology Co., Ltd.は、1997年にはじめての音声制御 IC を市場に送り出し、その後だんだんと各方面で知られる音声、音楽コントローラのリーダーとなりました。現在、Sonix Technology はさらに多くのビデオコントローラIC、8ビット・マイクロコントローラIC、USB コントローラIC 等の革新的な製品を提供し、世界でも急速成長している家電製品 IC のリーディング・メーカーの1つになりました。

Sonix Technology Co., Ltd.がこのように急速な成長を遂げた要因として、主に全従業員が皆その核心的競争力の発展に集中する事を要求され、自社で革新的 IP を研究開発する技術を持つことにこだわり、研究開発グループがスピーディな開発能力を持ち、また迅速で完璧なカスタマーサービスを持つことを要求されたからです。しかし、会社が急速に成長し、人的資源数が増え、組織が複雑化し、人材の運用も台湾から中国の四川省成都と広東省深圳等にまで拡大しましたため、ますます複雑になった企業の流れと情報交流の問題を解決すべく、Sonix Technology Co., Ltd.は積極的に各種の IT ソリューションを求めました。多くの部門では皆、様々な方面の協同作業ツールを必要とする中、Sonix Technology Co., Ltd.のコンピュータ援用設計(CAD)部門は、CodeBeamer が多くの研究開発部門が開発する際、多くのニーズに応えられ、且つ部門に多種の IT ソリューションをスムーズに導入する事ができることを発見しました。そこで、各部門の主管に紹介し、多くの部門での試用と評価を経、肯定と共通認識を獲得した後、2007年3月に正式に CodeBeamer を導入しました。

実は CodeBeamer を導入する前に、Sonix Technology の社内部門ではすでに各種様々な

Success Story

Bugzilla、CVS、Wiki などのオープンソースコードシステムを採用したことがあります。しかし、その使用した経験では、全体的なメンテナンスと教育コストがとても高く、使用時の利便性が悪く、権限があまり厳格でなく、整合性が不足していることに気づきました。このほか、会社内でもファイルの共有、エリアを越えた協力、仕事の進捗管理等の切迫したニーズがあり、各々のオープン・ソースコード・システムを採用しました。その結果、プロジェクトの開発メンバーは多くの情報が通じ合わないシステムのもとで、同一ケースの作業と情報交流を処理するという、オープン・ソースコードシステムの限界に耐えねばなりませんでした。Sonix Technology Co., Ltd.の CAD 部門は限られた時間内に一部のニーズを満足させることができるシステムを、より多く構築するという責務を負い、またプログラム開発を行い、現在のシステムとユーザーのニーズとの間のギャップを満足させ、同時に多くのシステムの状況とバージョンアップをメンテナンス管理し、そして万一、システムが故障した時、直ちに再インストールし、回復させるという高難度の任務を行わねばなりませんでした。長期的な運営と限りある資源から見て、CAD 部門は統合アプリケーションを使用し、これらの問題を解決するのが最も良いと考えました。CodeBeamer を試用後、彼らは CodeBeamer は 80%のニーズを満足させることに気づきました。しかも CodeBeamer が提供する API, Wiki plug-in, Ant の拡張ツールにより、使用部門が CodeBeamer を基礎とし、内部のニーズに基づき、より多種の応用的なシステム整合と自動化を行える機会があるのです。

「Codebeamer の導入前に CVS を内部バージョンの管理ツールとして採用していました。その後 Subversion の利便性と機能性が各方面において CVS より優れていることを発見し、且つ Subversion が未来の趨勢であることを確認しました。そこで、かつて皆に Subversion へ変えてみることを薦めたのですが成功しませんでした。しかし、CodeBeamer の導入後は、Subversion の推進がかなりスムーズになりました。」と CAD 部門は述べました。Sonix Technology が当初 CodeBeamer の導入を始めた頃、重点を開発グループのバージョン・コントロールと発布、そして情報のシェアに置いていました。ここ 1 ヶ月はさらに積極的に ERP システムの推進とカスタマイズに運用し、確実に全ての問題を追跡しました。現在、ユーザーは台湾と中国大陸を合わせ、合計 200 人余りで、プロジェクトはソフトウェア設計部門だけで 100 個以上あります。2007 年 8 月に Sonix Technology Co., Ltd.が商談中のもの、及びこの 5 ヶ月間に行った状況は以下の通りです：

- 「Code のバージョン制御に非常に大きな助けがあり、エラー code を出す確率が非常に少なくなりました。しかも容易に正しい code が探し出せます。通常、プロジェクトマネージャーがプロジェクトの code を最も理解しており、プロジェクトマネージャーがちょうど不在だったり、退職した場合、Subversion の威力は 20%しか残っていません。しかし、CodeBeamer の tracker はバージョン制御システム内の code と関連させて対照できるので、製品を理解していないほかの人でも正確な code が探し出せます。」と、システム設計部の塗副理は言います。

- 「CodeBeamer Wiki の機能は非常に強大です。私たちは Trackers を運用して software の審査メカニズムを実行し、エンジニアに随時、担当作業の情報の更新 (update) を要求し、さらに Wiki plug-in を用いて自動的にレポートを作成しています。例えば当月未解決の bug に対し、人員が Wiki page で、月初めに 200 個あった未解決が徐々に減少しているのを見ることができます。また各エンジニアに彼がこの数週間にすでにこんなに多くの bug を解決したことを知らせます。Wiki page を用いてデータセンターを Release するのも非常に便利です。CodeBeamer の Wiki link により、ソフトウェア設計部の“顧客”—システム設計部がアクセスして全関連情報を見ることができ、プロジェクト計画、Bug、Release の内容と状態、および CodeBeamer の文書管理センター (Documents) 或いは Subversion 上に置かれた関連ファイル等が含まれています。以前採用した open source の Wiki でデータセンターを Release することもできるようですが、皆に多くの Bugzilla が関連する http のキー入力を要求することができず、ファイルに関連させることも難しく、最後はただ掲示板であるだけでした。しかし、CodeBeamer は整合的システムなので、全てのデータを簡単な数文字だけで link させることができ、このようにシステム設計部との communication がとても容易に構築できます。」と、ソフトウェア設計部の楊經理は言います。
- 「私たちは Forum を利用して技術的な討論を行っています。新入社員はわからないことがあれば、すぐオンラインで質問し、ベテランが暇のあるときに返答し、このエリアを越えた交流はとても役立っています。一般的に多くが台湾側が回答しています。CodeBeamer の運用後、皆がさらにオンラインで物事を討論するようになり、知識の再利用率が高まったことに気づきました。私たちはさらに、CodeBeamer を通してメカニズムを調整し、プロセスの変更まで行います。」と、ソフトウェア設計部の楊經理は言います。
- 「整合したシステムはとても使いやすく、仕事の管理と追跡の効率を大幅にアップします。以前使っていた Excel は、別の人と同時に記録することができず、よくいくつかの作業や問題の記録漏れがありました。CodeBeamer は全ての人随時、その関連作業と Bug を登録し、各種アイテムを関連させることができます。しかも作業がある人に Assign されている時、システムは自動的に Assign されていた人に通知するので、その人はすぐ自動的に作業できます。管理者が CodeBeamer に入るとすぐ、プロジェクト全体の追跡項目が一覧になり、プロジェクトの全貌を見ることができます。」と、設計サービス部の陳經理は言います。
- 「以前、中国大陸とは全て mail を利用してコミュニケーションし、一体いくつのファイルが行方不明になったのか永遠にわかっていません。現在、公開のプラットフォームがあり、

Success Story

皆が分かち合うファイルは非常にはっきりしており、またファイルがどの人に読んでもらえたのかも分かります。」と、システム設計部の涂副理は言います。

- 「CodeBeamer の最も良いところは、各プロジェクトを数種類の Tracker に分けることができ、しかもとても簡単に customize できることです。異なるテーマの追跡は異なるフローと表を作り、その上、Tracker Report はすでにある程度の Report が作成でき、Report の export をすると excel にすることができるので、Report 製作時間を大幅に減らせます。」とソフトウェア設計部の楊經理は言います。

- 「ERP システムの導入に対し、user が e-mail 或いは電話でのコミュニケーションに慣れているため、問題がいつも知っている個人に限られます。現在、私たちは全ての IT 人員に問題を受け取ったら、CodeBeamer に key するよう要求しています。このようにした後、問題がこんなにも多いということを発見しました。このようにして、私たちはとてもはっきりと、まだ close されていない問題を追跡し、エンジニアやメーカーに確実な解決を要求することができるのです。ユーザーの操作の問題に対し、私たちはまた、Q&A と knowledge base を確立して、将来 user に直接システムに入ってもらい、質問したり、答えを探してもらうことで、重複回答の loading を減らしたいと願っています。」と設計サービス部の陳經理は言います。

Sonix Technology Co., Ltd.は、2007 年の Q4 に出られる CodeBeamer の AJAX バージョンに楽しみに期待しています。また CodeBeamer が将来より多くの整合と機能を提供し、Sonix Technology が競争の熾烈な IC 設計産業で、より強い助力を持って、壮大に成長を続けられることを希望しています。